

平成22年度 新教育課程拠点校指定事業実施報告書（拠点校用）

1. 研究テーマ

室戸市立室戸小学校

論理的思考力を高める授業の創造～言語活動を重視した算数科の授業～

学級数：11

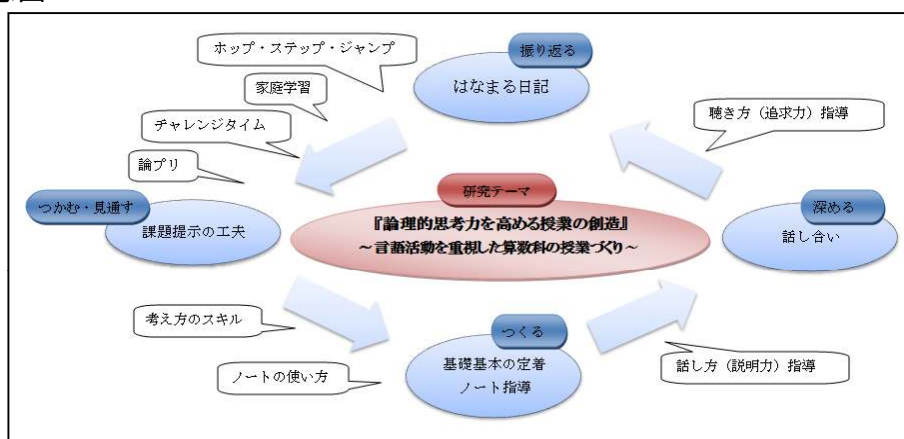
児童・生徒数：215

2. 研究の概要

1. 研究体制



2. 研究構想図



3. 組織的なOJTをめざして

◇論理的思考力、言語活動を重視した授業の充実

- ・課題と評価規準を明確にした理論研および実践検証（学習指導案の様式の統一）
- ・年間一人1本以上の提案授業の実施
- 《つかむ・見通す→自力解決→学びあう→確かめる→振り返る》が授業のスタンダード
- ・講師招聘研修による授業の検証
- ・児童が学習を振り返る場面としての「はなまる日記」の充実と有効活用

◇学級経営・教科指導サポートシステムの確立

- ・チームティーチングによる授業の工夫
- ・加力指導「ホップ・ステップ・ジャンプ教室」の充実

◇指導教諭による学年を横断した支援

- ・単元テスト、標準学力調査等々の結果分析からみえる具体的な方策の提起と支援
- ・研修会、授業実践を振り返るための記録「フィードフォワード」の発行
- ・校内研修の学校通信「あいので」の発行

◇講師招聘研修会

- ・文科省教科調査官 笠井健一氏
- ・鳥取大学地域学部長 矢部敏昭氏
- ・東部教育事務所 関田昭博氏、濱窪多美子氏

4. 教科経営案の作成

- ◇本校独自の算数科サポート集に加筆修正を加えながら、論理力の向上及び言語活動のポイントを明確にした教科経営案の作成

5. 研究成果の普及

- ◇公開授業及び講師招聘研修会への他校への呼びかけ
- ◇室戸市教育課題検討会、市教研等々、各研修会での実践報告
- ◇研究発表会の開催
- ◇校内研修の学校通信「あいので」の発行

3. 成果

1. 児童の学力向上にかかわって

学年あるいは学校全体をおしなべて言うと、日々の実践が、確実に学力向上につながっていると見える。しかし、依然として学力の二極分化が是正できない。

日々の授業実践の成果が、児童の7割方で満足できる状況にあるも関わらず、一方で伸び悩む児童が改善されない。もどかしいところである。

室戸式チェックテスト(算数の基礎基本)では、平均正答率はどの学年も80%以上という目標は満たしてはいるものの、どの学年も2~5名の児童が達成不十分という結果が出ている。

高知県の単元テストの結果にしても、二極分化の激しさが出た。県の平均や設定正答率を上回る児童が三分の二を超えるのに、学年の平均となると、学年によるが、2~5ポイント下回る。伸び悩む児童について、何回か繰り返し学習すると、向上はするが持続しない。

ただ、「学級経営・教科指導サポートシステム」や「ホップ・ステップ・ジャンプ教室」の充実によって、児童の算数の授業に対する姿勢や家庭学習ありようについては、アンケートから満足のいく結果が出ている。下学年の内容が定着していない児童にも向上が見られ出した。

「学級経営・教科指導サポートシステム」や「ホップ・ステップ・ジャンプ教室」が学力に伸び悩む児童の支えとなっていることがうれしい。

2. 授業力の向上、授業改善にかかわって

《つかむ・見通す→自力解決→学びあう→確かめる→振り返る》の授業構成が定着しつつある。

課題提示の工夫が肝要になってくるが、「学びの必然性」を押しつけるのではなく、「学びたくなる」課題提示ができてきた。

本校が目指す、「言語活動の重視」「問いが問いをよぶ授業」については、まだまだ授業実践で研鑽する必要があるものの、授業の課題を明確に位置づけることや言語活動の中心をどこに置かかなどは、日々の授業で繰り返し実践できつつある。

◆ 授業力総合診断シートでは、教師の自己評価は1回目も2回目もきびしい評価をしている(2.3~2.7)のに対し、児童や参観者の評価は、1回目も2回目も概ね満足といったところである。ただ、1回目も2回目も数値にあまり変化が見られなかったのは、教師の自己評価に見えるように、まだまだ改善すべきところがあると見てとれる。

◆ 保護者向けの学校評価アンケートでは、「先生はわかりやすい授業につとめていますか」の質問に対し、「<そう思う>」が41%、「<ややそう思う>」が48%、「<あまり思わない>」「<思わない>」が6%という結果が出た。少数の結果を重視すべきであろう。

3. 研究発表会から

◆ 研究発表会の参加者アンケートからは、数値的には肯定的な評価がいただけたが、今後の改善点については、指導方法の弱点をすどく突かれた。『児童の主体的な発言を多くしたらよい』とか『先生が説明をしすぎる』とか『他の子にふったり、きりかえしたりを多くする』といった指摘は、本校の目指す「問いが問いをよぶ授業」の未熟さを物語っている。

ちなみに、「言語活動を効果的に取り入れた授業が行われていましたか」の質問には、「<行われていたが>」42%、「<どちらかといえば行われていた>」50%であった。

また、「新学習指導要領の趣旨や内容を反映した取り組みをしていますか」の質問には、「<していると思う>」75%、「<どちらかといえばしていると思う>」25%で、取り組みについては、満足できる結果となった。

4. 課題とその改善策

1. 伸びる子伸び悩む子

授業改善の成果が表れる一方で、定着の差を生み出している現状が課題である。

- ・ 質の高い授業を日々実践で検証し、日々のOJTを充実させる。
- ・ OJTの活性化に向けては、ビデオやデジカメを駆使し、質の高いフィードバックをする。
- ・ 学力に伸び悩む児童が、「学びの必然性」が認識できるような課題設定を工夫する。
- ・ 少数指導、到達度別学習、TTなど、児童個々の要求に応えうる授業形態を工夫する。

2. 単元テスト、標準学力調査、全国学力・生活状況調査の有効活用

分析結果が、教科経営に有効に活用されていないところがある。

- ・ 本校児童の弱点を、教科経営案の「教科の課題」織り込み、実践に生かす。
- ・ 算数・数学シート、国語シートを家庭学習の内容として定着させる。

5. 年間事業経過

| 月 | 取組の内容 | | |
|-----|---|--|--|
| | 校内における取組（組織づくり・校内研修等） ※内容・講師名等記載 | 公開授業研・研究発表会等 ※内容・参加者数等記載 | 先進校視察・県連絡協議会等 ※行き先・視察の概要等記載 |
| 5月 | ①教材研究・学習指導案検討会 「順序よく整理して調べよう」（第6学年） 「あたらし計算を考えよう」（第3学年） ②学習会「学習の目標、学習の場面、学習課題」 | | |
| 6月 | ①校内授業研究会 第6学年「順序よく整理して調べよう」 第3学年「あたらし計算を考えよう」 講演会 講師 文科省教科調査官 笠井健一氏 演題 算数科における言語活動及び論理的思考力につ ②室戸式チェックテスト分析及び今後の手立てについて ③先進校視察研修1名参加 ④教材研究・学習指導案検討（第2学年） | ◆公開授業及び講演会 ①公開授業 2本 ②講演会 笠井健一 ③参加者 32名 | ◆先進校視察研修 行き先：高知市立泉野小学校 内容：研究発表会 参加者：1名 |
| 7月 | ①校内授業研究会 第2学年「100より大きい数を調べよう」 ②家庭学習についての情報交換 ③学習指導案様式検討会 ④教材研究・学習指導案検討（第5学年・第6学年） | | |
| 8月 | ①論理力プリントについての検討及び演習 ②教材研究・学習指導案検討（全学年） 講師・・・東部教育事務所 関田昭博先生 講師・・・東部教育事務所 濱窪多美子先生 ③各種研修参加者による伝達講習会 | | ◆第2回県連絡協議会（小・中学校） |
| 9月 | ①室戸式チェックテストの実施 ②校内授業研究会 第5学年「形も大きさも同じ図形を調べよう」 第6学年「分数のかけ算とわり算を考えよう」 講演会 講師 鳥取大学地域学部学部長 矢部敏昭氏 演題 「論理的思考力とは」「今後の課題について」 | ◆公開授業及び講演会 ①公開授業 2本 ②講演会 矢部敏昭 ③参加者 40名 | |
| 10月 | ①先進校視察研修3名参加 ②校内授業研究会 第1学年「ふえたり へったり」 第2学年「形を作ろう」 第3学年「1000より大きい数を調べよう」 講師・・・東部教育事務所 濱窪多美子先生 | | ◆先進校視察研修 行き先：金沢市立菊川小学校 内容：研究発表会 参加者：3名 |
| 11月 | ①算数科アンケートの実施 ②教材研究・学習指導案検討（第1学年、第4学年） ③教科経営案、年間指導計画様式の確認 ④校内授業研究会 第1学年「どちらがおおい」 講師・・・東部教育事務所 濱窪多美子先生 | | |
| 12月 | ①教科経営案、年間指導計画様式の作成 ②「研究のあゆみ」の作成 ③はなまる日記の進捗状況検討 ④モジュール学習の進捗状況検討及び見直し | | |
| 1月 | ①研究発表会 ◆全学年学級の授業公開 ◆取り組み報告 ◆講演会 講師 文科省教科調査官 笠井健一氏 演題 言語活動を重視した算数科の授業づくり | ◆研究発表会 公開授業 全学年学 実践報告 指導教諭 講演会 笠井健一氏 参加者 75名 | |
| 2月 | ①先進校視察研修1名参加 熊本大学教育学部附属小学校研究発表会 「みんなで伸びる授業デザイン」 ～豊かな対話を育む「論理科」カリキュラム～ ②算数シート、単元テストの効果と課題について | | ◆第3回県連絡協議会（小・中学校） ◆先進校視察研修 行き先：熊本大学教育学部附属小学校 内容：研究発表会 参加者：1名 |
| 3月 | ①23年度教科経営案、年間指導計画の仕上げ ②23年度の研究活動の振り返り ③23年度研究組織の確認 | | |